

連載 第 39 回

# クラウンド・デンス症候群 (crowned dens syndrome) の 1 例

庄司 拓仁

兵庫医科大学糖尿病・内分泌・代謝科 講師

大井 利彦

医療法人社団清和会笹生病院 副院長

安東 まや

医療法人社団清和会笹生病院  
健診センター長

笹生 幹夫

医療法人社団清和会笹生病院 院長・理事長

山本 徹也

兵庫医科大学 客員教授・名誉教授

## はじめに

クラウンド・デンス症候群(crowned dens syndrome ; CDS)は1985年Bouvetらによりはじめて報告された症候群である<sup>1)</sup>。CDSはCT上、軸椎歯状突起周囲の組織にピロリン酸カルシウム(calcium pyrophosphate dehydrate ; CPPD)結晶あるいはヒドロキシアパタイトの沈着をきたし、あたかも歯状突起の靭帯の石灰化像が冠をかぶったようにみえるのが特徴である。この疾患の症状は急性の後頭部痛、頸部痛、発熱などである。今回この症例を経験したので文献のレビューとともに報告する。

## 症 例

患者：73歳，男性

2型糖尿病にて以前より某病院でピオグリタゾン15mg/日で治療中であったが，2日前より急に首が痛くなり，前胸部にも痛みが波及してきたため来院。項部硬直があるため髄膜炎の疑いにて入院となる。体温37.8℃，血圧147/78mmHg，脈拍94回/分(整)。身体所見は項部硬直を認めるも，意識清明，胸部，腹部，四肢に異常を認めず。胸部レントゲン，心電図でも異常

を認めず。

血液検査所見は表1のとおりC反応性蛋白(CRP)高値，白血球の増加がみられた。頭頸部のCTで図1にみられるよう歯突起周囲に石灰沈着像がみられた。また膝関節のX線写真(図2)で石灰沈着像がみられた。これらの所見よりCDSと診断し，ステロイドホルモンが投与された。投与後，頸部痛，項部硬直は消失し，血液所見でも5日後には改善し，20日後には正常化した。

## 考 察

CDSの頻度は70歳以上に多く，男女比はそれほど変わらないが，女性に少し多いようである。CDSの症状は頸部痛，後頭部痛，発熱，炎症に伴う項部硬直である。われわれのケースでは頸部後部の痛み，発熱がみられ，炎症所見を反映するCRPの上昇，白血球の増多がみられた。

CDSによる痛みの特徴は数日～数週間持続し，後頭部下部から後頸部下部にみられる。また痛みの強さは軽度の後頭部痛や後頸部痛から睡眠ができないほど激しい痛みまで種々である<sup>2)</sup>。

CDSの原因であるCPPD結晶やヒドロキシアパタイト結晶は成長すると慢性の頸部痛や脊髄の圧迫症状を